



市整会

会報

大阪市立大学整形外科開業医会

No.74

2025年1月1日発行

医療法人 孝瑛会

西沢整形外科クリニック

〒599-8114 堺市東区日置荘西町1-15-23

TEL072-288-2001 FAX072-288-2002

巻頭言

市整会 会長 西澤 徹 (昭和62年入局)

平素は市整会活動にご参加ご協力賜り、誠にありがとうございます。

与党勢力が少数に転落し、役人に支配されたレイムダック政権は医療の行く末にも暗い影を落とします。

民主党政権時、日本医師会は民主党になびきました。その後の安倍政権で強烈なしっぺ返しを喰らい続けたのは皆さんご経験のとおりです。

急進的な医療DX化。マイナ保険証どころか2030年には電子カルテが必須化され、医療情報のすべてを国が吸い上げるという話がささやかれます。究極の個人情報に国家（役人）が握るという恐ろしい事態です。

医師は国民を守る防波堤とならねばなりません。

また医師数の地域間および診療科間の偏在が問題視されています。近い将来、地域の医師定員制が導入されるかもしれません。「かかりつけ医政策」はその端緒でしょう。そうなると大相撲の年寄株のように、既存する医療法人の資産価値が見直されるのではと私は秘かに期待しています。

超高齢社会での社会保障費肥大化に名を借りた医療の締め付けは、医師会の力を削ぎます。医師会候補を国会に送り込めなくなる日は近いでしょう。日本医師会の毅然たる態度を熱望します。

私は以前から、医師の小賢しさを嫌悪していました。議員にすれば「文句は多いのに票につながらない」。こんな集団は相手にされません。一

方、看護師や柔整師の団体は組織一体で動いているように感じます。しかもいろんな党に浸透している。医師は理屈ではなく、ただ行動することも必要なのではないのでしょうか。

これで若い先生方が将来に不安を持たないわけがありません。多様なニーズに応えきれない市整会行事への出席率が低迷するのもむべなるかなと思います。以前は市整会で「経営」の話はご法度でしたが、今や「年金や承継」が口の端に上らぬことはありません。「診療所経営」に真剣に目を向けようではありませんか。

お気づきかもしれませんが、市整会の講演内容も、後援メーカーの制約の中で、収入増につながるような講演を意識的に増やしております。

私たちは何より安定した生活を築く必要があります。それが家族・職員や患者さんの幸福につながります。

また人生の終末期にADLを維持し、明るく楽しい毎日を送らせる術を知るのは整形外科医です。我々の出番です。そのための準備を怠りなく始めましょう。

大学も寺井秀富新教授を迎えました。まず我々は市整会の利益を拡大すべく、私はさらに良好な関係を築く努力をいたします。承継の問題、休診時の医師の派遣、新規開業での協力。大学や同門病院繁栄のための協力。

個人的に関係を築く方が簡単ではありますが。しかし日本医師会のように集団が力を失うとき、大

学・勤務医・開業医のパワーバランスがくずれ結局は同門会の力をそぐことになります。

春には市整会執行部の刷新があります。同門会の新時代も始まります。

会の運営・変革には若い力が不可欠です。今一度市整会の価値をご認識いただき、多くの若い先生方が関わることで会の力を強くし、新たな地平を目指していければと切に願います。



令和6年度市整会学術集会の記録

R6.01.27 (土)

市整会新年会

リッツカールトン大阪

「脊椎外科20年の進歩」

大阪公立大学医学部整形外科学教室

准教授 (現教授) 寺井秀富

英国のSir John Charnleyが人工関節の礎を築いたのは1960年代であり、2024年の現在もCharnley typeの人工関節システムがGolden standardとして用いられている。一方、脊椎分野に於いては1960年代にはじめてHarrington法による脊椎インストゥルメンテーション手術がはじまった。以後10年毎にLuque, Cotrel-Dubousset (CD) など新たなインプラントが開発され、現在のPedicule screw法に至るが、60年前の面影はない。

大阪公立大学は乳幼児～超高齢者に対して、内視鏡を用いた低侵襲手術から大侵襲である変形矯正までありとあらゆる脊椎疾患に対応しており、これは他学にはない特徴といえる。2000年初頭には年間100件未満であった脊椎手術件数はこの20年間で右肩上がりに増加し、現在は400件近い件数に達している。20年間で約4倍の増加である。総手術数の約30%を内視鏡手術、20%を変形矯正手術が占めており、これらの手術の増加が、この20年の脊椎手術の進歩と結びついていることは疑う余地がない。

1990年代、我々はいち早く低侵襲脊椎手術の概念を導入し、顕微鏡を用いた除圧術を開始し、これは後に片側進入両側除圧術として確立された。2000年代に入ると本術式はFoleyらによって開発されたMicroendoscopic discectomy (MED) システムを用いて行われるようになり、現在日本で最も一般的な内視鏡脊椎手術Microendoscopic Laminotomy (MEL) として発展・普及した。現在もMELは大阪公立大学で最も行われている内視鏡手術である。一方、エジプトのSolimanが2013年にIrrigation endoscopic discectomy

(IED) を発表以降、韓国を中心に関節鏡を用いた内視鏡手術 (Biportal Endoscopic Spine Surgery (BESS)) が発展・普及した。約7mmの2か所のportalから腰椎除圧を行う本術式は新たな内視鏡手術として今後本邦でも増加していくものと思われる。大阪公立大学で全国に先駆け、いち早く本術式を導入し、新たな低侵襲手術の潮流を作るべく症例を重ねている。

変形矯正手術については、この10年で脊柱矢状面アライメントに関する研究が進み、アライメントの悪化がQOLを低下させること、体幹筋量低下がアライメント悪化と関連することなどがあきらかになった。そのため、以前はあまり一般的ではなかった矢状面矯正を主眼とした矯正手術が盛んに行われるようになった。本手術が発展した理由の一つに、新たな前方固定手技の登場が挙げられる。2010年以降、Oblique Lateral Interbody Fusion (OLIF) やXtreme Lateral Interbody Fusion (XLIF) といった低侵襲前方手技や、O-arm navigation systemなど支援装置の導入により、以前は3000ml以上の出血があった高度変形矯正手術も現在では無輸血で行われるようになりつつある。

今後、脊椎手術はさらなる低侵襲化を目指して発展していくと思われるが、将来的にはヘルニアで椎間板摘出術が激減したように、研究開発によって手術がなくなる可能性もある。また、AIやロボットの活用はまだまだ進んでおらず、これからの課題であるといえる。

R6.03.23 (土)

学術講演会

シティプラザ大阪 2階「燦の間」

演題1

「運動器疼痛治療戦略—ジクトル[®] テープへの期待—」

よしむらペインクリニック 山口 忍

近年、慢性疼痛が健康上の優先事項としてより注目されるようになっており、その治療の重要性が高まっている。慢性疼痛の中でも運動器疼痛は罹患率の高いものであるが、未だ十分に治療されているとはいえない。慢性疼痛の治療では集学的治療が推奨されており、薬物療法、神経ブロック療法はその補助的治療として位置付けられている。ジクトル[®]テープは経皮吸収型のジクロフェナクナトリウム製剤であり、がん疼痛治療および運動器疼痛に使用されている。内服薬とは異なるアプローチでの鎮痛が可能であり、今後も活躍の場が広がることが期待できる。

演題2

小児整形外科領域の診療に役立つ情報、陥りやすいピットホール

大阪市立総合医療センター 小児整形外科
部長 北野利夫

小児運動器の外来診療では、日常的な良性疾患の中に、稀な疾患、見過ごしてはいけない疾患、診断の遅れが将来の児の機能予後を大きく左右する疾患、が隠れている。早期診断が重要であることは誰もが認識しているところであるが、様々な原因から診断遅延が生じる。本講演では外来診療において鑑別疾患として念頭に置いておくべき疾患について解説するとともに、それら疾患の診察時の注意点についても触れる。

骨軟部腫瘍・血液腫瘍は常に鑑別に挙げておく疾患である。これらは、まずは疑うことが重要である。神経・筋疾患も跛行や足部変形を主訴に来院することが少なくない。身体所見の注意深い観察が必要である。小児期外反扁平足は経過が良好なFlexible flatfoot (FFF) がほとんどであるが、アキレス腱拘縮を伴うFFFやRigid flatfootは将

来、胼胝形成や歩行時痛が生じることがあるので鑑別が必要である。小児O脚はX線診断が主である。くる病の除外のために小児科への紹介や装具もしくは手術治療目的に小児整形の専門医への紹介が必要となる。講演では紹介の目安について述べる。

膝部痛を主訴とする股関節疾患などの関連痛による診断遅延以外に、そもそも診断が難しい例、稀な疾患であり鑑別に挙がらない例、初療医の知識不足、各種バイアスなどによって診断遅延は発生する。発育性股関節形成不全(DDH)に関しても、3ヶ月未満のDDH(脱臼・亜脱臼)はX線診断では難しいことがあり診断が遅延する。超音波断層診断(Graf法)やX線診断時の各種補助線の使用が早期診断には有効である。

小児整形外科領域の診療について注意すべき点を簡潔に解説する。

R6.06.08 (土)

学術講演会

アーバンネット御堂筋ビル 3FホールA・B

演題1

「リハビリテーション医療の現状と対策について」(外来整形外科疾患患者を中心に)

辻外科リハビリテーション病院
副院長 中土 保

高齢化が進む現在の日本社会において、リハビリテーション医療を必要とする整形外科疾患患者は年々増加している。しかしながら医療費の抑制のためか、急性期や回復期のリハビリテーション医療は医療保険で対応可能なものの、生活期(維持期)のリハビリテーション医療は介護保険が適応されることが多い。そのためリハビリテーション医療に関わる医療者としても、介護保険を含めたさまざまな制度に関する知識が必要である。

今回は、主に外来整形外科疾患患者に対するリハビリテーション医療制度の現状とその対策について述べる。

演題2

「骨折のリスクを考えた骨粗鬆症治療のフロントライン」

国立病院機構大阪南医療センター
リハビリテーション科 柏井将文

骨粗鬆症治療の第一段階は骨密度、椎体骨折の重症度、FRAXなどを用いた骨粗鬆症の重症度評価である。評価後に各々の骨粗鬆症の病型（骨量減少症、骨粗鬆症、骨折リスクの高い重症骨粗鬆症、大腿骨近位部骨折後）に応じた適切な治療薬を選別する。本邦において現在使用可能な骨粗鬆症治療薬は10種類以上存在し、各薬剤の長所・短所に精通する必要がある。

演題3

「保険診療の基本的ルール—個別指導における指摘事項の実際—（整形外科、運動器リハビリ 編）」

元 自衛隊中央病院長

（厚労省 関東信越厚生局 統括指導医療官）

千先康二

1. はじめに

全国で8つの地方厚生（支）局があり、近畿厚生局は7府県を管轄し、国民の皆様にも身近な医療、年金、健康、福祉、麻薬取締等の業務を行う地域における国の政策実施機関です。指導部門では、保険医療機関等の指定、保険医等の登録、医療保険事業の療養担当者に対する指導・監督、施設基準等に関する届出の受理等を行っています。指導医療官は、保険医療機関や保険医に対し、指導監査業務の実施、保険診療に関する指導・助言をする医療職の厚生労働技官です。特定機能病院・臨床研究中核病院に対する立入検査等も実施しています。

世界に誇れる日本の保険医療制度は、国民皆保険、フリーアクセス、現物給付、比較的安い医療費で高度な医療を提供していることです。1961年から国民皆保険が開始され、被用者保険／国民健康保険／後期高齢者医療制度があります。国民医療費（令和3年度）は、45兆円うち後期高齢者医療費は17兆円、国民1人あたりの医療費は36万円で増加傾向です。医療費窓口負担の一部負担金は、年齢だけでなく一定以上の所得者、現役並み

所得者で異なります。各都道府県の支払基金支部や国保連合は、レセプトを審査し保険者へ診療報酬を請求し保険医療機関に支払っています。医師≠保険医、医療施設≠保険医療機関ゆえ保険医としての登録、保険医療機関としての指定が必要で、ゆえに変更の届け出は、保健所と厚生局の両方に必要となります。どちらかのみで安心しておいで保険医療機関がありますので御留意下さい。保険医は療養担当規則で定めるところにより、診療に当たらねばなりません。すなわち保険診療のルールを熟知していることが前提となっています。例えば、保険診療と自由診療の併用（混合診療）は原則禁止です。自由診療は公的な医療保険制度が適用されない医療技術・材料・薬剤を用いた診療です。予防接種・健康診断には御注意下さい。保険診療として診療報酬が支払われるには、保険医が、保険医療機関において、健保法・医師法・医療法・薬機法・療養担当規則等の規定を遵守し、医学的に妥当適切な診療を行い、診療報酬点数表に定められた通りに請求することが大事です。

2. 時代の変化

保険医の皆様には時代の変化を認識して頂く必要があります。医療現場を取り巻く環境は、確実に変わってきています。審査支払機関ではレセプト審査のIT化が進んでおり、審査支払機関ではレセプトのIT化が進んでおり、縦覧（過去6月分）・横覧（外来・入院・他施設）・突合（調剤レセ）が容易となり、審査省力化、迅速化が進みました。これまでローカル・ルールが多かったのですが、全国統一化の動きが加速するでしょう。患者の意識も変化しました。医療費通知が届き、明細書も交付され、ネット検索も容易ですので、患者自身が病気に向き合えるようになったと同時に、医療費の適正化、医療機関の不正請求が防止される結果となりました。これまで厚生局に寄せられていた情報は患者からが多かったのですが、今では医療機関従事者からの情報が増えました。内部告発・公益通報は匿名可能で、従業員であれば信憑性・具体性があり、無視できないことも多いのです。医療倫理の浸透、医療安全知識の向上により、院内で訴えても聞き入れられなかった場合に通報されるのです。院内では管理者に付度し

て隠すかもしれず、開設者のガバナンスが注目されています。医療安全に疑義が生じた場合の情報提供窓口を院外に設けるのも一法です。これがないとマスコミや警察に流れ、より事態が複雑になります。

2024年4月から医師の働き方改革が本格スタートしました。勤怠管理・宿日直許可・タスクシフト等ですが、スタッフの意識改革と同時に、病状説明等に関しては患者・家族の意識改革も必要で、シフト制、チーム制の医療を評価する点数もつきました。

2024年6月には、厚生労働大臣の諮問機関である中央社会保険医療協議会（中医協）（支払い側7・診療側7・公益側6名の計20名の委員から成る）が2年ぶりに診療報酬点数表を改定しました。たとえ学会が推奨しても保険適用できないことはあります。知識のリニューアルが必要です。

3. 意識改革のすすめ

昔からこうしてきたという考えから、そろそろ脱却して頂きたいのです。例えば、薬だけの方はこちらへとして処方箋を出せば、無診察治療、医師法違反となります。たとえ患者が希望しても、顔色も見ずに処方してはいけないのです。患者を診ていないのに、外来管理加算や特定疾患療養管理料まで算定した場合は不正となります。

次に、診療録は単なる備忘録ではありません。診療経過の記録であることは確かですが、是非意識して頂きたいのは、診療報酬請求の根拠であるということです。診療録に書かなければ、やっていないと同じです。さらに医療者を守る証拠です。医療は、寿命のある人を相手にする以上、結果の保証ではなく、最善を尽くすという経過の保証です。診療録は、妥当適切な医療をやっているということを証明してくれるものなのです。

米国などは、医療費はホスピタルフィーとドクターフィー別々に請求されます。我が国では、出来高払いでありドクターフィーは内包されていますが、医師の技術料である診断料、判断料、医師の分析結果は、診療録に書いてなければやったことがわかりません。検査・画像の未読は訴えられたら負ける時代です。検査料より判断料の方が高点数のことが多く、たとえ正常範囲であったとしても確認した証拠を残すべきです。

レセプトは単なる請求書ではありません。電子カルテとレセプトコンピュータは連動している筈です。検査をするための根拠のない病名、いわゆるレセプト病名はやめましょう。必要であれば、摘要欄・症状詳記を活用して説明します。レセプト提出前に必ず医師が最終チェックをして下さい。

4. 算定要件・施設基準

診療行為の請求では、一定の要件を満たすことが必要となり、「算定要件」といいます。目に見えない技術に対する評価も含まれており、定められた指導内容の要点等を診療録に記載すべきで、算定要件を満たさずに算定していれば、返還の対象となります。診療録記載、添付、レセプト摘要欄への記載、算定日・コメント記載が必要になることがあります。

「施設基準」とは、診療報酬を算定するにあたり、健康保険法に基づき厚労大臣が定めた保険医療機関の機能や設備、診療体制、安全面等を評価するための基準です。満たしておればいい場合、届け出て承認が必要な場合があります。個別指導よりは適時調査で指摘する施設基準の影響力の方が大きいのです。

保険診療として基本的に医科点数表にないことはやれませんが、「準用」できることがあります。いかなる診療行為の所定点数を準用して算定するかは、全国的に統一された基準で行う必要があるため、そのつど厚生労働省保険局医療課に内議し決定します。

算定要件を満たさない等、診療報酬請求が妥当ではないものを「不当請求」と言います。詐欺や不法行為に当たるものを「不正請求」と言います。故意にやったのは悪質ですが、故意でなくとも重大な過失が認められれば処分対象になります。不正請求には、架空請求、付増請求、振替請求、二重請求、重複請求、その他の請求があります。その他の請求には、施設基準を満たしていない、押しかけ往診・健康診断・無診察診療・自己診療など保険診療と認められないものなどです。

薬物治療においては、承認された用法・用量、効能・効果を守ることが前提となり、添付文書のチェックが求められています。適応外投与・禁忌投与・用法外投与・過量投与・長期漫然投与

・重複投与に注意して下さい。薬局からの疑義照会には懇切丁寧な対応をお願いします。

5. 個別指導等について

個別指導には、「集団指導」（指定時、改定時、更新時、新規登録医）、「集団的個別指導」（レセ1件当たりの平均点数が高い保険医療機関）、「新規個別指導」（新規指定から6ヵ月経過後1年以内に実施）、「個別指導」（情報提供、再指導、集個で翌年高点半数以上）、「特定共同指導」（本省医療指導監査室と共同で実施）があります。指導の目的は、保険診療について周知徹底させることであり、医学的に妥当・適切な診療をしているか、保険のルールに則って診療をしているか、算定の根拠が診療録に記載されているか、診療報酬請求が点数表の定め通り適正かという観点からレセプトをチェックしカルテを確認しつつ保険医にヒアリングします。指導結果は、「概ね妥当」「経過観察」「再指導」「要監査」に分けられます。

指導と監査は全く異なることを御理解下さい。監査の目的は、不正又は著しい不当が疑われる場合に、事実関係を把握し、公正かつ適切な措置を採ることです。

適時調査は、施設基準の届け出を行っている医療機関に対して、届出要件を満たしているか実地検査を行うものです。今は、病院しか対象としていません。基本的には毎年ですが、医療機関数が多いところは、3～4年に1回となっているかもしれません。

個別指導で多い指摘事項を列挙すると次のようになります。

- ①カルテ体裁：運用規定、ID付与、パスワード等、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン6.0版」に準拠していない等
- ②傷病名：検査・投薬の査定を防ぐための医学的根拠のないレセプト病名、転帰未記載、確定病名／疑い病名の区別、部位・左／右・急性／慢性の未記載、急性病名長期、症状名（Rコード）、原則1つの主傷病名が多数。不十分と思えば症状詳記で補うこと。
- ③基本診療料、入院基本料、外来管理加算：初診料・再診料の理解不足、外来管理加算（丁寧な問診と詳細な診察）、入院診療計画、院内感染防止対策、医療安全管理体制、褥瘡対策、栄養

管理体制、意思決定支援の指針、身体拘束に関する基準に不適合。

- ④医学管理：指導内容、治療計画等の診療録への記載など、算定要件を満たしていない。例えば、対象外の疾患に慢性疼痛疾患管理料を算定、骨粗鬆症の治療をしていないのに二次性骨折予防継続管理料を算定、紹介元と紹介先の医師が同一の診療情報提供料Iなど返還対象。
- ⑤在宅医療：回数制限、加算・基本診療料算定の可否が異なる往診と訪問診療の区別、訪問診療に係る同意書、在宅療養指導管理料（在宅自己注射指導管理料など）に指導内容の要点なし等。
- ⑥検査： unnecessary項目を含むセット検査、どれかは当たるだろうという広範なスクリーニング検査、検査の重複、必要性が乏しい検査、研究目的の検査、段階を踏んでいない検査、6月を越えて実施したTRACP-5b検査、超音波検査で所見記載と主要画像の添付がない、呼吸心拍監視で医師の波形所見記載がない。検査判断料：医師による判断の記載なし。
- ⑦投薬・注射：適応外、用法外、禁忌投与、ビタミン剤長期、残薬未確認。（例えば、スベニールディスプレイ関節注は、変形性膝関節症、肩関節周囲炎、RAによる膝関節痛のみ）ロキソプロフェンテープ過量、ノイロトロピン長期間漫然投与、トリガーポイント注射と神経ブロックの同一日の併算定など。
- ⑧リハビリテーション：実施計画書、総合実施計画書、時間管理、FIM測定の不十分。（一方癌患者リハビリは、先ず総合評価料1を算定してからリハ開始）退院時リハビリ指導料で、患家の家屋構造や介護力を掌握した上で指導していない。1単位20分のリハ時間が杜撰。時間管理が画的。部位転がし、標準算定日数超え。
- ⑨処置：消炎鎮痛等処置に医師指示なし、創傷処置の範囲記載なし、関節穿刺の必要性・所見なし。
- ⑩手術：同一手術野等の手術、準用、同意書・手術記録なし、輸血同意書不備。
- ⑪麻酔：神経ブロックの必要性記載なし。

保険診療確認事項リストは、厚労省の医療指導監査室が作っているものですが、個別指導後の措

置判断基準の標準化に役立ち、厚労省のホームページでも公表しており、皆様もダウンロードできますので御確認下さい。

6. 令和6年度 診療報酬改定の概要

人材確保・働き方改革の推進を重点課題とし、地域包括ケアシステムや医療DX等医療機能の強化、連携推進、安全で質の高い医療、医療保険制度の安定性等の観点から改定。

診療報酬は+0.88%、薬価は-0.97%、材料価格は-0.02%でした。

賃上げのため基本料診療料が引き上げられました。医療DX推進の加算が新設され、ポストコロナの感染症対策が新設、介護・福祉と同時改定の対応、外来医療・入院医療の分化、質の高い訪問診療の評価などが特徴です。

リハビリ関連でも、リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算、急性期リハビリテーション加算、疾患別リハビリ料の実施者別区分の創設などや、一部のリハビリ料の見直しがありました。

今回話題になったものとして、生活習慣病に係る医学管理料の再編があります。特定疾患療養管理料の対象疾患から高血圧、糖尿病、脂質異常症が削除され、療養計画書の作成・患者の同意が必要な生活習慣病管理料Ⅱが創設されました。

7. おわりに

独自の解釈で請求せず、診療報酬点数表を確認し、必要により地方厚生局に問い合わせてください。医科点数表にない手術を行った場合、準用に関する疑義照会では、手術記録をはじめ文献や倫理委員会記録など様々な書類を御準備頂きますので御理解下さい。

世界に誇れる日本の保険医療制度を維持し、国民の皆様が安心・安全に医療を受けられるよう皆様の御活躍を祈念しております。

R6.11.9 (土)

文化講演会

TKP大阪御堂筋カンファレンスセンター

学術講演

脊椎インターベンションエコーでどこまで可能になったか

まえだ整形外科 院長 前田 学先生
前田奈々先生

日常診療において、近年エコーを用いた診療を多くの医師が取り入れるようになった。しかし、脊椎領域に限ってみるとエコーはあまり外来診療にはいかされていないように思われる。脊椎インターベンションの代表的なものとして、硬膜外ブロックがあげられるが、初めてLoss of resistance法を用いた硬膜外ブロックが紹介されたのは100年前までさかのぼる。透視やエコーなどの補助的モダリティのない時代に、抵抗感の消失だけで硬膜外腔に薬液を届けられるようになったのは画期的なことであった。しかし、透視などの補助的モダリティをつかっても、成功率は70%程度と満足のいくものにはなっていないのが現状である。また、椎間板ブロック、神経根ブロックなどにおいてもペインクリニックの医師を中心に透視で解剖学的ランドマークを確認する方法が主に行われてきた。透視を用いたインターベンションの最大の欠点は、造影剤を併用しない限り血管や神経を可視化できない点にある。それに対して、エコーは、血管や神経の描出において優れている。近年エコーの解像度の向上とリアルタイム性によってさらに安全で正確なインターベンションの開発が進んでいる。

今回我々は、エコーで可能になってきた脊椎インターベンションの新しい方法について、供覧していきたいと思う。

文化講演

ケーキの切れない非行少年たちと頑張れない人たち

立命館大学総合心理学部・
大学院人間科学研究科
教授 宮口幸治様

少年矯正施設において認知機能に問題のある在院者への矯正教育や治療が課題となっている。特に発達障害や知的障害をもった少年たちは、みる力・きく力が弱く支援・教育内容が理解しにくい、目の前にないものを想像する力が乏しい、といった機能的な問題から、自己洞察や内省の深まりに限界が生じている可能性もある。また罪の意識や共感性などは道徳発達の一部であるが、認知機能の障害は、学業不振、衝動性、他者への共感性や罪の意識の乏しさ、自分の行為を予測する力の乏しさ、問題解決力の乏しさなどに影響を及ぼ

し、反社会的行動に繋がることもある。

そこで矯正教育や学習支援など様々な教育をより効果的にするため彼らの認知機能の底上げを目的にコグトレ（認知機能強化トレーニング）を開発してきた。また知的障害までいかないが一定の支援が必要という境界知能も注目されている。境界知能は人口の約14%いるとされるが、ほとんど気づかれず支援対象外になることも少なくない。彼らは認知機能の低さに加え、運動技能の不器用さ、実行機能の低さ、学習の遅れ、社会参加の制限などから経済面や就労面など様々な領域での支援の必要性がある。非行少年たちや困っている子どもたちの中にも境界知能が相当な割合で存在すると思われる。このような“頑張れない子どもたち”をどう支援し、そして日々の臨床現場や教育現場等においてできる予防策について考えていきたい。



長田明先生の追悼文

石崎 嘉昭（昭和37年入局）

長田先生は薬石効なく6月25日敗血症で逝去されました。最後の入院に至るまで自宅で療養中は、くしくもラグビーのチームメイトであった友人の谷和光彦先生が往診していたと奥様からお聞ききして不思議なご縁を感じました。

先生は昭和37年大阪市大医学部を卒業されました。在学中彼はサッカー部で活躍し当時のサッカー部のメンバーは敬愛する故岡島幹雄先生、同級の故関淳一君、前同門会会長の北野公造先生など好漢がそろっていました。

卒後故小谷勉教授主宰の整形外科入局後、一年下の先生は故木下孟先生の研究グループで吉中先生等と研究や診療にいそしみ、一方私は故豊島泰先生、故松田英雄先生の神経グループで故鈴木隆君らと共に互いに切磋琢磨する良い意味のライバル関係にありました。先生はスマートで明るく爽やかで同期の故小松堅吾先生に雰囲気似ていました。

昭和43年大学紛争の時期、先生はフランスの給費留学生としてパリ大学COCHIN病院で約一年間股関節の人工関節の研鑽をされました。当教室ではその数年前に故木下孟先生がCharnley先生の研究所に渡英されていましたが、当教室の股関節人工関節手術のパイオニアの一人であります。

大学在籍中よくお世話になっていた我孫子の故松井善邦先生の病院であるとき長田先生が側臥位での大腿骨頸部骨折の人工骨頭置換の鮮やかな手術を見せてもらいました。

先生は大学の関連病院の勤務を経て昭和53年堺市で開業されました。その後開業医として実績を積み更にはOCOIAや整形外科同門会では会長として活躍され人格識見共に備わったリーダーでありました。市整会でも草創期の中心的なメンバーの一人であり皆様よくご存じのとおりです。

私はNCOIAに所属しているため、OCOIAでの御貢献については共に会長を歴任された黒田先生の稿にゆずります。市整会で私は開業後庶務の役を先生から引き継ぎ、今日の森川先生につながっています。はるか以前に先生は娘婿の関西医大卒のドクター（和田先生）と一緒に診療する予定だと嬉しそうに話しておられたことがありました。

多分4～5年前になると思いますが、身体も不自由で杖をついて会合に出席され片目が見えにくく仰っていましたが、市整会に対する熱い思いに感心しました。この度奥様によりますと、数年前から健側眼も悪化し中途失明となり我々には想像を絶する苦難の日々を過ごされたことと推測いたします。

6月9日にはサッカー部OBの元大阪市長の関淳一君、7月18日には先生と同期の山野慶樹元教授など短期間に先生とゆかりの深い諸氏の逝去が重なり、私共にとっても寂しい限りであります。

先生の温顔を思い浮かべながら心からご冥福をお祈りいたします。



長田明先生の追悼文

黒田 晃司（昭和46年入局）



2024年6月23日長田明先生は88歳の誕生日でした。その2日後天寿を全うされました。先生は晩年緑内障で視力を失いましたが、堺医師会、市整會、JCOA、OCOAなど広い領域で活動され沢山の後輩を育てました。視力が低下してご自分で貢献できないと判断され退かれました。

私は1月に先生が体調を崩して浅香山病院に入院されたとき奥様の許可を頂きお話を伺ったのが最後になりました。私は長年知りたかった先生が急に開業した訳をお尋ねすると「昔のことは忘れてしまた」と言われその理由は話されませんでした。心からご冥福をお祈りいたします。

先生の御尊父は佐賀県のご出身で堺市で開業されました。明先生は大阪で生れ三国ヶ丘高校から大阪市立大学医学部に進み、1962年に卒業1963年同期の3人と共に整形外科に入局、1965年同大学院に進み、博士論文に取り組ながら、1967年フランス語で同国の奨学金を獲得されました。

この奨学金はフランスの文化を世界に広めるために支給されるそうで、この奨学金を得て留学された人はその道ですでに有名な方が多く、建築家の丹下健三氏もその1人だそうです。したがって長田先生のような形で留学するという稀有な存在だったそうです。

同年7月から奥様を伴われて、パリのコシャン病院整形外科教授・メイヨドピネ教授の元へ留学されました。長田先生と共に留学された医師の山畑先生が長田先生が大阪市大医学部出身者だと聞

いて自分の父親の彫刻（下の写真）が市大医学部の建物に取り付けられている女神の像だと話されたそうで「世間は狭い」と話されたことは奥様から承りました。

長田先生はコシャン病院の整形外科助教授でしたポステル先生に人工股関節の手術を学ばれた。1970年博士論文を書き大学院を修了されました。

1972年9月から再度コシャン病院へ行き、その時は整形外科主任教授に昇進していたポステル先生の元に再度留学して、1967年7月からの留学時に手術した人工関節の症例をfollow upし、Metal to metalの人工関節とMetal to polyethyleneの手術の経過に差がないことを確認されました。

1967年留学後更に進歩したコシャン病院の人工股関節手術をポステル先生から指導を受けて帰国されました。

当時日本にはまだ人工股関節の手術症例が少数で術後の成績がわからない、いち早く人工関節の骨頭とカップの組み合わせによる術後成績などを報告されました。2度も留学して調査・報告した長田先生は尊敬されると共に羨ましく思われました。が如何せんフランス語に挑戦した人はいなかった。

帰国後大阪労災病院に勤務されました。当時労災病院には阪大と市大の出身者が半数ずついましたが、市大出身者は長田先生リーダーだった。

1973年、私が整形外科に入局した年は、我々の



教室が開設25年記念の年でした。2代目の小谷教授が記念事業を企画・実行されました。

先生がアメリカ留学中に培った人脈で著名な医師7人を招聘して25周年記念会を開き、その足で7人の整形外科医を伴って医局員40人と共に北大で開催された日整会総会に乗り込みました。これが私にとっては長田先生と初めて参加した日整会でした。

小谷教授が招いた7人の先生の講演やシンポジストとして専門分野でプログラムに組み込まれていて、これら先生の座長や司会を小谷教授の流暢な英語で務め、活躍されました。この学会の片隅でJCOAが生まれたのです。

これも皆さんはご存じないでしょうが、伊丹空港へ小谷教授が諸外国からの客人を出迎った時、先生の自家用車・クラウンの運転手を務めたのは実は私でした。この時私も旧式のクラウンに乗っていました。勿論、ポステル先生をお出迎えしたのは長田先生でしたが、そのポステル教授の容姿は手足が長く長身で格好良かった。歩き方が長田先生と不思議なくらいよく似ていて、まるで長田先生がまねをしているようで可笑しかったのが私の心に残っている。

1980年5月、私が開業するとき医師会に加入するための手続きなど全面的に堺市医師会の理事で



総務を担当していた長田先生のお世話になりました。私だけでなく沢山の後輩も同様にお世話になりました。長田先生には本当に長期に渡りご指導ご鞭撻を賜り心から御礼申し上げます。安らかにお休みください。

上の写真は1973年北海道大学整形外科教室が主催した日整会総会に参加した時、北大の構内のクラーク先生の胸像の前で撮影した。左から長田先生・私・岡島先生。



私にとっての市整会（後編）

黒田 晃司（昭和46年入局）

次に忘れられないのは松尾先生等が親交のあった薬師寺の管長・高田好胤氏の紹介で滋賀県招福楼へ行ったのが1989年11月12日です。食事の用意が30名迄と念を押していたのですが、募集するといきなり35名の応募があり、今更5人を断るわけにも行かず、松尾先生にも言えないので私の責任で電話して5人増員してもらいました。ここは山田尚先生の地元ですので彼と相談して長浜市・黒壁スクエア、八日市市・松尾神社を經由して招福楼へ行った。広い座敷の畳の座敷に座っていただいた純粹の日本料理でした。



長浜市黒壁スクエア



招福楼の
枯山水の庭



松尾先生と
伊藤先生の食事風景



宮内先生と
小松先生の
食事風景

この続きは市整形会報40年誌をご覧ください。

1989年4月総会で長く勤めてこられました初代市整会長・伊藤先生が勇退され、松尾澄正先に交代されました。長期政権の後新しい空気を吹き込もうと新会長の意気込みで、1992年5月に市整会創立20周年を迎えます。

記念パーティーが提案されました。「非日常の会という企画」を作って開催しようと言われました。「黒田君ホテルに詳しいようだ企画を提案して下さい」私と南平先生が理事の中で若造でした。

南平君の顔を見ると手を団扇のように振り「オレ知らんでエ！」と逃げの姿勢。松尾先生が「責任はすべて私が持ちますので、思い切って非日常のプランを作ってください」と言われました。小松先生も長田先生も手伝いますと言われました。

私はあの旅行＝熱海への1泊旅行＝の二の舞になるのかとオシッコちびりそうでしたが、今この会の働き手の両先生に励まされ「やるしかないな」と思いました。

私はこの非日常の会と言うテーマが理解できず松尾先生に伺いますと「今までやったことのない会・したことのない企画」と言われました。

パーティーの企画など作った経験のない私達には難しい企画です。食事は気張って高価で食べたことのないもの→フランス料理？服装は今までしたことない？「タキシード」？会費は思いっきり高額で1人10万円？思いっきり私が経験したことのない条件を並べてみた。非日常性の時間を過ごす料理は何か？3年間あるので長田先生が長年フランスへ留学されていたので、フランス料理について何うと「一般の家で日本料理を食べていると言っても芋の煮物を食べる日もあれば刺身も食うやろ。吉兆の日本食は日常我々が家で食う日本食と違うから美味しいと思て食べるやろ。ロイヤルホテルのフランス料理店のメニュー聞いた方が参考になる」という返事で長田先生の言う通りとだと思いました。そこでまずいつものロイヤル

ホテルの営業マンに電話して水曜日の午後時間を取ってもらいました。

食べたことのないフランス料理のメニューを教えるに欲しいと担当者に言い、まず私のフランス料理の印象を伝えると「100人までのフランス料理は28階のレストランで食べてください。それを超えると宴会場になります。宴会場で出すのは宴会料理になりますので、黒田さん言う料理には対応できません。ロイヤルホテルに今、洋食を作れるコックは50人います。ジビエの料理を1人で作れるものは30人でしょうか！ここがポイントです。50人のコックに中の30人をメイン料理のジビエ料理を調理する約1時間ここへ集めないと出来ません。宴会料理でしたら20人で500人分作ります。これは判りやすい説明です。これで今までやったことのない会・非日常の食事が半分判った。

「やったこれだな」次に料理長直接会って5月頃のフランス料理について訊きました。あらかじめ会員が食べたことのない料理のメニューを希望することを伝えてありましたので、総料理長は「ジビエの料理がびったりです。最近時々フランスから空輸してもらっている食材ですが、まだほとんど提供していないものです。これならまずよほどの食通でないとい今の日本人は食べたことがないでしょう」と言われました。

1991年4月の総会を済ませて落ち着いたころ松尾・宮内・小松・長田・私の5人で試食会をしました。ジビエ料理はゲテ物かと心配しましたが、言われないと野獣の肉とはわかりません。松尾先生が「シェフが言うように今まで私も食べたことがない。ゲテモノという印象を与えないのでこれにしよう」と賛成してくれました。

問題のワインは長田先生が「日本人にはまだわからん、田崎さんに任した方が良い」で決まりました。

あとは出席人数です。今回は何も操作しませんでした、自分でほくそ笑んでしまいました。99人でした。

前もってパーティーの詳細について希望を出しました。①この時年間契約している音大生の室内管弦の実演を入れる予定でした。②乾杯のお酒ドンペリ。栓をサーベルで切り落とすソムリエ・田崎さんの技。③会員が食べたことのないジビエの料理の説明は総料理長がする。④一番苦労したのが

ワインです。ワインをがばがば飲まれるとすぐ100万円を超えるそうです。そこで魚料理の時の白ワインとジビエの時の赤ワインを2種類に限定して、それ以外は出さない。これは試食の時、私以外の先生に納得してもらった銘柄です。

あと音楽などは会長、小松先生、長田先生と打ち合わせて決めましたが、私の好みです。

服装は理事会の度に毎回話題に乗せ、そのたびに色々言われましたが、最終的に松尾会長が「二度とこんな会できないかも知れないので、どうしても嫌な人は別としてして、タキシード着用してください」で決まりました。

私が費用の見積もりを見たのが1991年の暮れでした。3年間の間に電話を除いて50回は会って話してきました。「条件付きですが会費を半額に出来ますがどうでしょうか？」と言われて我が耳を自分でつねってみて痛かったので「夢ではない」と思ったとは少々大袈裟ですが「10万円と先生が言われていましたが、半額に出来ます。その代わりに私がおる間はロイヤルホテル使ってくださいね！」すぐ小松先生に報告しました。「それは大きいで!!」と褒めてもらいました。

1992年の総会前の理事会でこれまでの経過説明と10万円の会費が半額になった代わりにワインは皆様が酔っぱらわない程度しか出しません。ちょっと張り込みましたので、指定のものだけにしてくださいと報告しました。

小松先生が「黒田君の努力のおかげです」と報告した時、理事の顔はタキシードの不満は忘れたようでした。

予定通り理事会は進行したので、本日の宴会に移ろうとしたとき、突然「ゲストに鳳蘭予約しといたで」という発言がありました。会合に集っていたみんな腰を浮かしかけた時一瞬ポカーン…「誰が頼んだん？」私の顔を一齐に痛いほどの目線で刺されました。勿論私も何が起こったのか知る由もなし。小松先生が「費用は？先生出してくれマンのカ？」「わし金ない」「費用はなんぼ？カカリマンネン？」「300万円プラス交通費と宿泊費」「ちゃんと調べてるヤン！」ここまで来て私はすべてがどんでん返しにあった気持ちです。頭の中は真っ白になり思考が停止した状態です。どう収拾してよいのか？判りませんでした。松尾先生が「これで決まりや！」と宣言されました。



日本タレント名鑑

小松先生が「非日常性の企画」というのに一番ふさわしいということですか！と言われあまり驚いていなかった。松尾先生の顔を見ると「決めたのだから突き進め！」やけくそになったようには思えません。私の企画ではここが限界だと思い、はじめからアトラクションは松尾先生が考えて進めておられたのだと気が付きました。

1992年5月9日案内状にはロイヤルホテルで鳳蘭・ディーナーショーと書かれています。皮肉なことに鳳さんは医師のご主人と離婚したところでした。蘭さんの会話の端々に参加した奥様の方を向いて「医者と結婚した奥様は如何にわがままなご主人が悪い！ご苦勞をされてお気の毒です」という嫌味な言葉が呟かれました。笑わなしょうがないお言葉もご愛敬でした。大成功でパーティーは終わりました。宝塚出身の歌手のエンターナーとしての実力に感服しました。私は満足でしたが本当に良かったのでしょうか？

このパーティーの記録写真は3人の写真学校の生徒を雇っていました。36枚×10本×3人＝1,080枚の写真があります。ここから参加者（99人）夫婦で参加41組。会員だけ16人。

57冊のアルバムを家内と夜なべして作り、参加者に押し売りしました。80万円ほどになりました。

私は疑問を感じて父が言っていた100年経過した大阪大学同門会を堀木先生にお願いして会場をのぞかせてもらいました。父の言う100年経過した大学を参考にするために。

会場は年配の先生が前方の席の1/3を占めていて、吉川先生は中央からやや後方の席に座っておられました。

市整会は理事が定年制になり会費納入の義務がなくなりました。小松堅吾先生が会計を担当しているとき会費の自動引き落とし制度にしたり1,000万円以上の資金を溜めました。奨学金が1億円集められました。こんな奨学資金を持った医局はないでしょう。この奨学金のため小松先生のところに税務調査が入り、先生は1週間診療そちのけで対応して公認の奨学資金になりました。

今考えるとこの奨学資金を法人が管理しておくべきでした。小松先生は体調を崩され、市整会には来なくなりました。私は理事の定年になりました。

小松先生から電話がかかってきて「退職して僕に診療所譲って！」と三男に言われたそうです。「公認会計士事務所を造るつもりらしいワ！」とうれしそうな声が聞こえて私は救われた気持ちになりました。「自分で会費払えんようになったら止めるべきや！」。

宮内・小松両先生は市整会との関係は有言実行されました。私は未練があり実行できませんでした。



いわゆる代替医療について

担当理事 西上 茂樹（昭和54年入局）

平成4年の開業以来30年以上がたち、そろそろ終活の準備が必要になってきましたので、今までの治療経験を総括してみようかと思いました。総括といっても、いわゆる鍼灸や漢方などの「代替医療」を用いて治療してきた経験です。基本的にはもちろん西洋医学ですが、補助的に代替医療を用いた経験です。

きっかけは研修医時代に経験した寝違いの鍼治療の効果に驚いたことです。以来、そのツボ（落枕穴）を使っていますが、その後、腰痛に対しNSAIDsが効果のない症例に漢方1包（芍薬甘草湯）で劇的に効果があったビギナーズラック経験以来、漢方や鍼灸の研修会に参加するだけでなく、いわゆる代替医療の怪しい？研究会にも積極的に出席するようになりました。定期的に東京や京都に研修会に参加したり、岩手や宮崎、高知にも旅行を兼ねて教を請いに訪問したこともありました。参加費や旅費、購入機器代を合わせると、高級外車くらいの費用を使いました。

結論から言えば効果があるのはやはり鍼灸治療と漢方薬です。意外と効果があるのはキネシオテープです。また怪しいと思われる研究会でも、比較的信用できるのは、やはり医師主催のもので、参加費の高い（半日5万円というもの）のは信用できません。それらの治療効果を検証して併用しながら、できるだけ即時効果のあるような治療に心がけています。その効果の一部を紹介します。

「いわゆる腰痛、非特異的腰痛」最近は、非特異的腰痛も解明されつつありますが、それらも含めて効果があります。手背への鍼2本+脊柱へのキネシオでRed Flag Signや神経症状のある症例以外に対し即時効果があります。キネシオに対しては懐疑的でしたが、確かに効果があります。鍼治療に効果がなければ、最近ジクトールテープなどを使います。

「膝の痛み」関節水腫のある場合でも、キネシ

オを貼り、膝窩部のツボをほぐせば殆どの症例で痛みが軽減し、翌日には水腫が消失することが多い。従って、水腫に対して穿刺することは滅多にありません。効果のない場合は穿刺しヒアルロン酸も注入することがありますが、月に2～3例です。

その他にも「いわゆる寝違い」「環軸椎回旋位固定」「肩関節周囲炎」「テニス肘」「足関節捻挫」などにもすぐに効果があることを経験しています。

ただ問題は、患者さんの付度が気にかかる場所ですが、治療後の表情を見れば大抵わかります。また、子どもは正直ですからはっきりと言います。鍼治療は、治療直後に効果を実感できます。まだまだ改良の余地や新しい治療法もあるように思いますので、今後も、患者さんの反応を楽しみながら精進したいと思っています。

漢方薬の効果は「68芍薬甘草湯」が有名で広く処方されていると思いますが、それ以外に効果のある漢方薬を一部紹介します。

「28越婢加朮湯」昔懐かしい「キモタブ」や「ダーゼン」など有効性を証明できずに販売中止となった薬と同じような薬効を示す漢方薬ですが、これらよりはるかによく効きます。具体的には、外傷などの腫脹に対し抗炎症作用があり、下腿の浮腫にも効果があります。

「107牛車腎気丸」なぜか関節水腫に効果があります。効果が少ないときは附子末を加えます。ただし、中年の肥満気味の女性には「防己黄耆湯」の方が効果的です。

「102当帰湯」なじみのない漢方薬ですが効能効果にあるように狭心症様の痛みや、肋間神経痛様の痛みにも効果的です。

「89治打撲一方」急性期、慢性期を問わず外傷時の第一選択薬です。外傷の基本処置で最近用いられるのは「RICE」より「PEACE&LOVE」のようです。「A」はAvoid Anti-inflammatory

drugでNSAIDsは使わないようです。

「17 五苓散」低気圧頭痛に効果がありますが、二日酔いや下痢にも効果があります。

そのほかにもいろいろ効果的な漢方薬があります。ともかく漢方薬は、西洋薬では対処しにくい疾患にも効果があり、併用もできます。鍼灸は即効性があり、漢方薬や西洋薬との併用でより効果が上がります。日常の診療に取り入れることをお勧めします。



市整会家族会を企画して

福利厚生担当 大川得太郎（昭和62年入局）



今年の家族会は、西澤会長の提案で、若い会員、お子様がいる会員も参加できるように、お子様も楽しめる須磨シーワールドにしました。須磨シーワールドは須磨水族館が閉館して、1年後の6月1日にリニューアルオープンしました。連日大盛況で、日曜祝日は、チケットを獲るために長蛇の列です。私も、9月に現地調査をしまして、大賑わいで驚きました。

お食事は、神戸の老舗の「西村屋 和味旬菜」で懐石料理を堪能していただき、お食事の後には、神戸ハーバーランドumieでお買い物しました。

今回は、集まりが悪く、特に若い先生の参加が無く、とっても残念でした。また、常連の先生も、水族館は興味が無いとのことで、不参加のお知らせが続きました。結局11人の会員とごご家族で、総勢23人でした。また、西澤会長の思惑も外れ、お子様は、小竹先生の3歳のお孫さんおひとりでした。しかし、非常に大人しく、しっかりしたお孫さんで、今回の家族会のアイドル的存在で、カメラ好きで、非常に楽しかったです。小竹先生によると、こんなに大人しくしているのは珍しいとの謙遜のお言葉でした。

須磨シーワールドは、イルカとオルカのショーがメインです。特にオルカは捕獲が禁止されており、日本では須磨を含め3カ所しかオルカのショーを鑑賞することができません。須磨シーワールドは、神戸保全繁殖センターとして、水生生物、

特に鯨類（バンドウイルカ、カマイルカ、シャチ）の繁殖に関する研究を推進し、飼育下繁殖と人工授精技術の向上を目指し、国内でのイルカ類の繁殖向上に貢献する目的もある施設です。今回も、イルカとオルカのショー及び併設のテーマ型水族館を、少し早足でしたが、楽しんで頂けたかと思っております。

須磨シーワールドは良い感じで回れましたが、西村屋 和味旬菜の食事には少しガッカリしました。今回11,000円の懐石でしたが、メニューが少なく、その内容も名店の感動するお料理もほとんど無く、私はガッカリしました。物価高なのか分かりませんが、他店と比べてかなり見劣りする感じがしました。ただ、参加人数が少ないと、どうしても食事の内容や飲み物の内容を削るしかありません。落胆された先生方もおられると思いますが、すみませんでした。

バスは48人乗りです。今回搭乗員さんも含めて24人です。細かい話しですが、バスや交通費で23万円位かかります。参加人数が少ないと、他に回す経費が無く、内容が低下して残念でした。

私が、市整会家族会を担当して10年が経過しました。ぼつぼつ、家族会の行く末を考える時期と思います。若い先生や、ごご家族が参加されないなら、将来はありませんので、家族会の存続を話し合うべき時期と思います。ご検討をよろしくお願い致します。



第29回スケルトンゴルフコンペの報告

担当理事 天野 祐一（昭和57年入局）

晴天とまではいえないが、まあまあ雨の降らなかった2024年6月23日に第29回スケルトンゴルフコンペが今年も天野山カントリークラブにて開催されました。

スケルトンゴルフコンペ2連覇中の小島孝仁先生は今回不参加で、また市整会ゴルフコンペ2連覇中の田中直史先生も参加されましたが足の痛みで途中棄権されました。

結果14人でのコンペになりました。

ベスグロは91の金田国一先生と小阪寿憲先生で

した。

優勝はインもアウトもドラコン賞の禰史明先生、2位に小竹志郎先生、3位に金田国一先生でした。ハンデに助けられたり泣いたりの結果でしたが、賞から外れた先生もお土産のメロンをゲットして笑顔で解散しました。今回は教授選考の前の微妙な時期と言うこともあり、大学医局からの参加は玉井先生お一人でしたが、新教授も誕生しましたので、医局の新時代に期待して来年度も開催の方向で検討しております。



2024.11.8 夏のスケルトンゴルフ集合写真



2024.11.8 夏のスケルトンゴルフ優勝者 禰史明先生

第29回スケルトンゴルフコンペ順位 天野山カントリークラブ 2024.6.23 参加者15名（敬称略）

		西	東	GROSS	HDCP	NET
優勝	禰 史明	46	48	94	21.6	72.4
2位	小竹 志郎	52	42	94	20.4	73.6
3位	金田 国一	43	48	91	16.8	74.2
4位	伊藤 智康	47	49	96	21.6	74.4
5位	林崎 広	46	47	93	18.0	75.0
6位	秋野 一男	54	51	106	30.0	75.0
7位	北野 利夫	56	53	109	32.4	76.6
8位	馬野 隆信	48	51	99	21.6	77.4
9位	林 成治	49	56	105	26.4	78.6
10位	天野 祐一	49	55	104	25.2	78.8
11位	小阪 寿憲	50	41	91	12.0	79.0
12位	西澤 徹	47	47	94	14.4	79.6
13位	鄭 明和	47	52	99	18.0	81.0
14位	玉井 孝司	61	56	117	36.0	81.0

ドラコン賞 西8 禰先生 東9 禰先生

ニアピン賞 西4 小阪先生 西7 金田先生 東5 小竹先生 東8 西澤先生

今年も六甲山、油コブシと紅葉谷

天野 祐一（昭和57年入局）

令和6年11月17日、毎年恒例となりました有志の山歩き。昨年の酒蔵ハイキングはやはり飲み過ぎて身体に悪いとのことで、六甲山に復帰です。今回は六甲ケーブル下駅前に集合して、「油コブシ」という難所を越えケーブル山頂駅まで行き、更に有馬温泉ロープウェイ駅横から極楽茶屋を紅葉谷に下って温泉につかりバスで梅田まで帰り宴会というややハードな行程を組みました。

これまで東おたふく山、七曲り、穂高湖、シェール槍が岳、六甲山頂、摩耶山、トゥエンティクロス、雪の丹波篠山小金ガ岳、旧福知山線廃線跡ウォーキング、大峰山と武田尾温泉、荒地山、打越峠、高座の滝から風吹岩、芦有道路ゲート経由東おたふく山から雨ヶ峠、金鳥山『山の神』と六甲山などのバラエティーに富んだハイキングコースを歩いてきました。

今回のハイキングには奥田均先生、金井秀彰先生と私が参加。山バ〇高山優先生は発熱で欠席（鬼の攪乱）。所用で来られなかったメンバーも宴会から森澤康二先生と秋野一男先生が合流する予定です。

曇天から小雨模様の元、六甲ケーブル下に8時30分に集合。ここまでは阪神電車御影駅やJR六甲道駅、阪急電車六甲駅を通過して市バスがやってきます。バスは日曜日でも7分間隔で運行しているので便利です。六甲山は自動車でドライブするところだとずっと思っていたのですが、この六甲ケーブルは20分間隔で運行しており2両編成で一度に150人は乗れるのでさほど混雑はしていません。行楽シーズンには15分間隔になるようです。片道600円。かわいい色彩とデザインで高低差493mを10分で運んでくれます。今回は登山の下見のため2週間前にケーブル山頂駅から下りを利用したのですが、これが快適そのもので1時間30分かけて山頂駅まで登って10分で行ってしまい、文明の利器って凄いと感動しました。これが昭和7年に開通したとの事ですから山行きが便利にな

り、さぞや人気になった事でしょう。

8時25分ケーブル下駅を出発、綴れ折りの舗装道路を800m登って高羽道登山口へ。8時35分に登山開始。いきなりの階段、階段、階段です。前日の雨で登山道は濡れていて紅葉から落葉が始まって紅葉のカーペットです。程なく霧に包まれ小雨模様になりましたがカッパを着るほどではありません。急坂と緩やかな道が繰り返して続き、喘ぎながら高度を上げてゆきます。小休止を挟んで小一時間で高羽道から油コブシへの分岐点に。昔々神戸の油売りが樽に詰めた油を担いで有馬に売りに行った道です。あまりの陰しさに油を「こぼした」ところからこの名前が付いたとのこと。なるほどですが他にも魚屋道（ととやみち）炭屋道（すみやみち）などもっと平易な道もあるのにも思いましたが、そこは無法な昔、山賊などもあったことでしょう。

更に急坂を上り油コブシに到着、9時33分。霧と樹木で展望は有りませんが記念写真です。三角点の側には誰かが作ったかわいい山頂モニュメントが置かれていました。（写真下：油コブシ）



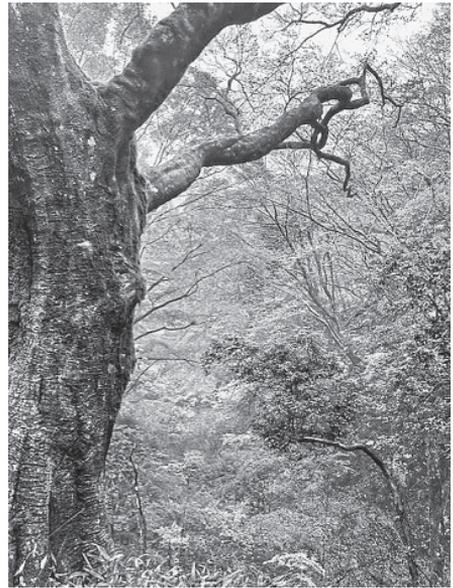
ここから六甲ケーブル山頂駅までなだらかな上りが続き最後に階段、階段、階段で天覧台横にできました。天覧台は昭和56年の神戸ポートアイランド博覧会の時に昭和天皇が立ち寄られて名前が付いたとのこと。ここでは下界は雲海に覆われてこの時は一瞬青空が見えていました。

道路を右に行くとゴルフ場の中を通り近畿自然歩道と名付けられた六甲全山縦走路経由で2.7キロ歩けば六甲山ガーデンテラス、有馬温泉ロープウェイですが、後半のハイライトが待っているのです。ここはケーブル山頂駅前から出ている山頂周回バスに乗って移動します。これも20分間隔で運行していてケーブルで上がってきた観光客や登山者で満員でした。小雨模様とは言え人気の六甲山です。

余談ですが、今年も11月10日に六甲全山縦走大会が開催されたようです。朝5時に須磨浦公園を出発し摩耶山や山頂などのチェックポイントを通過して宝塚にゴールする、公称56キロの山道を歩くというハードな大会です。エントリーは1000人でリピーターも多く毎年埋まる様です。こんなハードなコースに一体誰が行くのかなと思っていましたが、高校の同級生や同門の先生も参加していると聞いてます。凄いですねー。

10時20分のバスに乗り、記念碑台（六甲を開拓したイギリス人貿易商グループの記念碑像あり）から六甲大通りを進み六甲山フィールドアスレチック前（冬は人工スキー場）、六甲森の音ミュージアム前、六甲高山植物園（上の入口横のパーキングに駐めてカフェ利用も良い感じ）を経由して、六甲山ガーデンテラス前で下車、370円。1000万ドルの夜景と言われる眺望なのですが、またまた山上は霧に覆われて僅かに切れ目から神戸のポートアイランドがうっすらと見える程度です。昔は回転するレストランがあったり、駐車場で前向きに駐めた車に乗ったまま夜景が見られるというデートスポットでした。観光バスでやってきた沢山の外国人団体客も今日の景色ではお土産を買うしか無いようでお気の毒でした。このカフェでコーヒブレイクし、さあ後半のハイライト、極楽茶屋から紅葉谷の山下りです。

ここからは約5キロの道のりで、有馬温泉を目指します。いきなりの急な下り坂が続き850mから一気に100m程下ります。右側は六甲山山頂に



連なる山塊、左側は高尾山や湯槽谷山など有馬三山に連なる山塊。之に挟まれた大きな谷にブナの大木が道沿いから覆いかぶさって来ます。時はまさに紅葉、黄葉の真っ盛りで谷全体が赤や黄色に輝いて登山者を迎えてくれました。たっぷりと紅葉を堪能しながらなだらかな尾根道や険しい急坂をロープを頼りに下ります。（写真上：紅葉谷の紅葉）

このあたり紅葉谷の左右には有馬四十八滝の百間滝や七曲滝、白石滝、滑滝などが点在し、冬場は氷結する氷瀑を見るため登山者がアイゼンをつけてやって来るとのことです。1月下旬から2月上旬までの1週間ほどの間滝の流れが氷結し百間滝からのアイスガーデンになるようです。上級者向きのコースで、いつかは挑戦して見たいものです。ブナ林から谷川の脇道をたどって降りてゆき何度か渡渉を繰り返し、白石谷からの河川の出合を越えてしばらく行くと半舗装された林道になります。さらに炭屋道分岐を越えて3キロも過ぎた頃、ようやく左手に有馬温泉ロープウェイの架線が見えました。

通りかかったゴンドラには乗客は少ないようでした。

程なくロープウェイ有馬温泉駅に到着。周りに駐車場も充実していて気軽に六甲山をたのしめる拠点です。登山は終了、お疲れさまでした。

道路を右へ歩き10分くらいで今日の立ち寄り湯のかんぼの宿、亀の湯に着きました。13時30分。

入浴料1000円バスタオルレンタル150円。ホテルの建物は大きいですが、お風呂は金泉のみで意外に小さい印象でした。温泉フリークとしてはいまいか。

しかし、朝8時30分からほとんど歩き通して5時間、汗と小雨で濡れそぼった体です。寒くはなかったですが、機能性下着は休憩すると冷えてきますので殆ど動いていました。温泉に入れるだけで有難いです。この時間帯はほとんど立ち寄り湯利用者ばかりでした。さっぱりした後は温泉街を降りて行き、点在する泉源や銀泉（立ち寄り湯700円）を過ぎてメインストリートへ。

有馬は20年ぶりの奥田先生はその変わり様と観光客が行列する様にびっくりしていました。表通りのお店はどこも行列で、あのコロッケのお店（昔は地元のお肉屋さん）は窓口でコロッケを売り出して、来る度に様子が変わり数年前には立派に建てかわり長蛇の列です。立ち食いコロッケあなどり難し。生炭酸煎餅の店やソフトクリームの店なども建ち並び、歩きながら食べる習慣がすっかり定着しています。

とりあえずビールを飲みたいので、並ばず入れそうな店を探して裏路地へまわると、どこもかしこも新しい飲食店になっていました。

妬（うわなり）泉源の隣に出来ていたバル（有

馬でバル！）のテラス席に陣取り、ビールで乾杯！お疲れ生です。店内はいっぱい、作り手は一人だけでテンパっている様子でしたのでアテは頼まず早々に後にしてバス乗り場に。事前に予約していた有馬温泉発阪急三番街行き特急バスに乗って3時10分に出発、爆睡してる間に梅田に到着4時5分。（1400円。繁忙期は予約が必須）。

クリスマス商戦の始まった梅田の街を横切って阪神とヒルトンの間にあるビアホールニュートキョー第一生命ビル店に行きました。地下2階にある奇跡のように空いている店です。4時25分宴会スタート。このようなビアホール形態の店は存続が難しいようで、あのアサヒビアハウスチェーンも全て閉店したとの森澤先生情報。ここのビアホールも徐々にお客さんが増えて結構入ってると言えどもヨドバシカメラのフードコートや駅前第3ビルの居酒屋の混み方にはほど遠いです。4800円飲み放題で5皿の料理付き。何と3時間制で、さらに550円で飲み放題30分延長可能。なんて大らかなお店でしょうか。

今回の山歩きは3人でしたが、何とか全員でここまで来られた事に感謝して、乾杯～。（写真下：山歩き打ち上げ） やっぱり六甲山は面白いと感じた一日でした。本日の歩数25600歩。



断捨離と終活

増田 博（昭和57年入局）

断捨離とは自分に本当に必要なものだけを選び、自分の周りに必要でないものを残さないこと。自分と向き合って暮らしの中で本当に必要なものだけを選ぶ作業。ただ物を捨てる、服を捨てる、という意味でないのです。断 本当に必要なもの以外を買わず、いらぬものを断つ。捨 家にある自分のものでいらぬものを捨てる。離 これはいつか使いそう、何かに使えるかもと、という執着から離れることを言います。

終活とは人生の終わりを見越して行う活動のこと 財産整理や身の回りの整理、葬儀屋お墓の準備などだそうです。

以前から僕は断捨離を行おうとしていますが、なかなか進みません。恥ずかしい話ですが、身の周りにはモノがあふれかえっていて、書籍、書類、ダイレクトメール、服、とにかく物がいっぱいあります。自分にとって必要でない物を買ってしまうこともあります。物はたまる一方で、思い切っ捨てようと思しますが、手が止まって、ひょっとしてこれから先に必要になるかとも思い、元に戻すことがあります。駄目ですね、思い切っているな物を処分しないと。何冊も整理の本を買って実践しようと思しますが、うまくいきません。少しずつ捨てようとするのですが、物が増えていくほうが早いのです。時々、時間を作ってまとめて捨てるようにしますが、普段から少しずつ処分して整理しておけばこのような時間とられることもないと考えるとこれも悔しいです。

一時はきれいになりますが、また同じです。ずっと 見ることもなく触ることもなく置いてあるものは捨てるでもいいのでしょうかこれもなかなかできません。

あるところに書いてありましたが、その筆者は読んでしまった本は捨てるそうです。そしてまた読みたくなったらまた買うそうです。なかなか真似はできませんが、なるほどなと思いました。

皆様はどのように断捨離をされていますか？最近思います。長時間、ものを捨てるかどうか考えるのも時間の無駄でよくないと。瞬時にその物が必要か必要でないかを判断する決断力が大事だということがわかってきました。あとで後悔することがあるかもしれませんが、何ものにも通じる早い決断力が必要なのです。断捨離を断行して何もかもが整理されて、自分に必要なものだけに囲まれて、すっきりとした環境を夢見ているのですが、現実にはなかなかうまくいきません。でも近いうちに 徹底した断捨離を行い 心身ともにすっきりする予定です。そうなれば その断捨離が終活につながるかなと考えています。

終活のため わたくしが死んだ後 残された者が捨てるににくいものを近いうちに捨てるつもりです。例えば写真、子供時代からのかなりの量の写真が残っています。これの取捨選択をして残った写真をできれば電子的に保存して、それを利用して自叙伝のようなものを作れたらと思っています。

ほかにも捨てなければならぬ物がいっぱいあります。本です。学生時代からの医学書は少なかりましたが、まだ古い医学書も残っています。もう何年も読んだり見たりしていないので捨てるもよいはずですが。雑誌でもいつか読むだろうと置いているものがあります。スポーツ医学という月刊誌がありますが、なぜか創刊号からもう何十年も定期購読をしていて捨てられません。学会誌はだいぶ処分しましたが、その他の雑誌も機会を見て処分するつもりです。

衣服も買って何年も着ていないものがあります。もったいない話です。何年も着ていない服は捨てるつもりです。

写真、雑誌、本、服だけでもいづらか整理できたらすっきりすると思います。一日でも早くできるように努力します。

はーるばる来たぜ、ウズベクウー♪

阪本 博史（昭和59年入局）

「青の都サマルカンドと古都ブハラ、シルクロード世界遺産紀行」というツアーに参加しました。「医師協タイムズ」という雑誌にドクターズツアーの企画で載っていました。ツアーの主催が、「日本旅行企画」と書いてあったので、てっきりあの大手【日本旅行】の企画だと思い、このツアーなら安心と申し込んだのですが、送られてきた封筒には、「日本旅行企画（株）」と書いてあり、別の小さな旅行会社でした。まあドクターばかりのツアーなので大丈夫だろうと、申し込んだところ、すでにいっぱい（定員14名）でした。「飛行機はとれますが、ホテルがとれましたら、参加していただけます」との返事でした。ふつうの海外旅行と反対やろ、と思いつつ、連絡を待っていますと、二日後に参加OKと返事があり、参加することになりました。

送られてきた行程表を見ますと、エアラインはアジアナでインチョン経由タシケント行きでした。韓国から中央アジアには頻繁に便が出ており、ハブ空港になっています。もともと、韓国から中央アジアには労働力としてのひとの行き来が多くそのための路線が頻繁に就航しているようです。関空からインチョンまで1時間50分、インチョンで乗り継ぎ4時間、インチョンからウズベキスタン・タシケントまで8時間、合計14時間の行程でした。ウズベキスタンは、アフガニスタンの北、カザフスタンの南に位置しており、いわゆるシルクロードの洛陽とローマのちょうど中間地点のオアシス都市がたくさんある国です。「月の砂漠をはるばると♪」の国です。砂漠といってもサハラ砂漠のようなサラサラ砂ではなく、表面は砂ですが、下は固い土で、砂漠というより土漠という感じです。雨も少しは降るようで、街の周辺は綿花などの農作物も植えられており、さすがここはオアシスという感じです。

タシケントに夜10時ごろ到着してホテルまでバス移動でした。途中沿道は国旗をもった群集でご

ったがえしていました。パリオリンピックで、ウズベキスタン初の金メダルを取った選手が同時刻の便で戻ってきたようで、それを出迎えるための群衆だったようです。

二日目はタシケントから古都ブハラへはスペイン製の新幹線のような特急アフラシャブ号で4時間。快適な列車移動でした。時速200kmを超えるスピードの区間もあり、スリル満点でした。ブハラでは、古い要塞、モスク、神学校の観光。小さなバザールで買い物。

三日目はシャブリーズまでバス移動。モスク、神学校、ティムールの墓観光。サマルカンドまで悪路をバス移動。途中、ガスくさいと思ったら、道路沿いに天然ガスのパイプが走っていて、そこから常にガスが漏れているそうです。そんなところをバスが走っていいのかな？

四日目はサマルカンド観光。モスク、神学校、天文台、ティムール像観光。青の都と呼ばれるサマルカンドの青いタイルのモスクのドーム、壁のタイルは美しく、さすが世界遺産です。写真を載せたかったのですが、この稿は白黒で、美しさがわかってもらえないので、写真は省略しました。興味のあるかたは、ウズベキスタン、サマルカンド、レギスタン広場と検索してください。

五日目、サマルカンドからタシケントまで特急アフラシャブ号で移動。ティムール像、抑留日本兵が建てたナヴォイ劇場、日本兵の墓地、神学校観光。夜、日本に向け出発。という行程でした。

アジアナ航空は、食事はなにを食べてもキムチが入っていましたが、キムチはきらいじゃないのでまあまあOKでした。CAさんの首に巻いた、ピンと尖ったスカーフが目刺さりそうでちょっと気にはなりましたが。まずまずの航空会社でした。KALと合併しそうで、最初で最後の利用になるかむしれません。

観光ですが、お気づきのように、どの街でもモ

スクと、神学校と、ティムール関連の場所で、代わり映えは無く、サマルカンドの青いドーム、タイルだけは感動しました。ウズベキスタンの観光は、サマルカンドだけで十分かもしれません。12世紀にモンゴルに蹂躪され、破壊しつくされた「ホラズム」地域なので、そんなに古いものは残っていません。ゆえに、その時代以降、統一した、日本ではあまりなじみのない「ティムール」が賞賛されているのでしょうか。

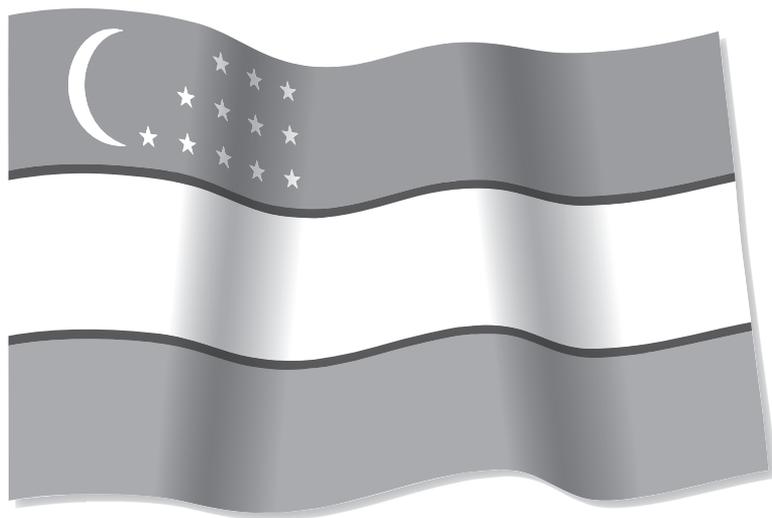
食べ物。おいしいです。ロシア料理が基本で、煮込み、焼肉、生野菜、味付けは塩。ワインは安くおいしい。特に赤は良品でした。元々ワインの原産地ジョージアにも近く、気候風土も近いので、良い品質のワインができるのでしょう。ビールが安い！ロング缶で150円くらいでした。あまりに暑いので、飲みまくっていました。

買い物。蜂蜜が安くおいしい。綿花の産地なので、綿花から摂った蜂蜜が濃厚でおいしいです。値段も日本の1/5くらいでしょうか。ドライフルーツも濃厚で安い。メロンのドライフルーツを初めて食べましたが、絶品でした。ワインも買いたかったのですがツアコンさんから、インチョンで没収される可能性があるとのことで、購入は断念しました。そのぶんむこうでこたま飲みました。最高の買い物は、シルクの絨毯です。ペルシャ絨毯のように、イサファン、タブリーズ、ク

ムなど名前の売れている産地ではないので、同じ品質の絨毯が1/4ぐらいの値段で買えます。バザールのオヤジと値切り交渉を汗だくでするのもなかなか楽しい時間でした。

なによりも凄い体験は、気候でした。8月のお盆に行ったのですが、日中の気温は44度、湿度17%、無風。カラカラの熱々です。風が吹いたらもっと暑くなるそうです。木陰は格段に涼しいのですが、日中は日差しが強く、日傘無しでは歩けません。雨の降らない地域ですが、ちゃんとコンビニのようなお店には、傘が売っていました。二日目の夜に早速買いました。花柄の傘しか売ってなかったのですが、柄のことなどかまっていられないくらいの暑さでした。乾燥しているので、汗はかいても、あつというまに乾いてしまいます。同じグループの初老の男性は、いつも同じ黒のTシャツを着ていたのですが、汗が乾いて、後ろから見ると、塩昆布のようになっていました。8月はウズベキスタンの一番暑い季節で、観光には不向きとのことでした。ベストシーズンは、5月、10月だそうで、冬はまた内陸性の厳しい寒さだそうです。

観光客のいない、のんびりした、安全なオアシス都市です。お薦めの国ですが、ツアコンがいないと、ちょっと行きにくい国です。



寺ちゃん(…すみません)、おめでとう!!

森川 献志漢 (平成8年入局)

僕自身、文章を書くことが苦手ではあるのですが、学年の近い寺井秀富先生が教授に就任され嬉しくて書き始めてみました。

Episode 1 : 僕が入局二年目の時に研修医として入局され、その際僕は病棟勤務であり、寺井先生とは仲良くさせて頂きました。その際、寺井先生が整形外科医を選んだのが学生時代にLeeds-KeioでACLの手術をされたことがきっかけだとお聞きしております。仕事面としては、病棟の採血・点滴などをする際、近大の麻酔科で研修をされてから市大に入局された事もありルートを採る手さばきが抜群に上手かった事が印象的でした。

Episode 2 : 仕事が終わるEssen (食事) に、1年目の先生方と一緒に行くのですが、毎晩のように行く食事会に徐々に時々しか参加されなくなった時があり、寺井先生と同期の先生に『寺ちゃんは?』と尋ねると、『同じ様な食事会の繰り返しになり、参加はするけど毎回はやめとく』と言われたことから、しっかりしている人だなと思った記憶があります。

Episode 3 : 中村先生が講師の時代にオーストラリアへ入学されていた時、たまに医局に遊びに行くと黙々と研究に没頭されていた背中や、研究も含め若手の先生方に頼りにされていたのが、記憶に残ります。又、その後の中村教授就

任後に、謙信的に仕事をされていた話を、市整会行事の後で飲みに行った際に語られておりました。

Episode 4 : 僕が頸椎ヘルニアで硬膜外注射をしてもらい、針が脊髄をつらぬき右手が動かなくなった際の受傷後2ヶ月くらいに、心配して下さって忙しい中わざわざ僕のクリニックまで出向いて下さり、MRIを見たり、診察して下さった際は、気分的に落ち込んでいる時であり、本当にありがたく頭の下がる思いでした。

Episode 5 : 直近では、今年の新年会で講演に来てくださり、講師控室で『もし教授に就任した際には寺ちゃんとは呼べなくなるね!』と言っていたら、『そんな事言わずに今まで通り呼んで下さいよー』と言って下さった事でも、人柄がうかがえました。

思い出されることを脈絡もなく書きましたが、近い年代の先生が教授に就任することは、先輩方も経験されてきたことですし、市整会の若手の先生も今後経験されると思いますが、嬉しい事ですし、特に好意的な先生がなられるのは尚更嬉しい限りです。

僕を感じている寺井教授を読んで、教授の新たな一面を知って頂き、これからの医局が一丸となって、盛り上がっていける一因となれば幸いです。



竹内アンナのライブに参戦して

鱧永 浩 (平成7年入局)

10月20日に竹内アンナのライブに行きました。場所は梅田トラッドと言って、かつてはバナナホールと言っていたライブハウスです。自由席でオールスタンディングで整理番号順に入っていくのですが、私の整理番号が10番で、早く入れたので良い場所を選ぼうと中を進んでいきました。はじめ1番前に立ってましたがスピーカーの斜め前だったのでこれは演奏中爆音で耳がやられてしまうと思い、また最前列だと途中でサボれず、曲に合わせずっとノっていかないといけないのでやめて、少し後方に体をもたれさせられる、柵があるエリアがありましたので、そのすぐ後ろにポジションしました。柵をつかんで立ってられるのでこれは楽かなと思い、良い位置を確保できました。

17時いよいよ開演で、メンバーはボーカル&ギター竹内アンナでベーシスト1人、ドラマー1人の3人での演奏でした。竹内アンナは26歳でお客さんも若い人ばかりかなあと思ってましたが、予想は裏切られ30代から60代位の比較的高年齢のオーディエンスでした。

竹内アンナは京都出身の人なので、ただいま帰って来ましたーと言って、若いのにトークがなかなかで盛り上げるのが上手でした。曲は今年3月にリリースしたアルバムDRAMAS、の楽曲をメインとして、かつてリリースしたファンの中ではよく知られている曲を中心として、リズム感の良い曲からラップまで幅広いジャンルの音楽を奏でておりました。歌詞に英語が多くて、それを流暢に歌われ会場も一体感を持ってノリに乗って盛り上がりました。

Apple Musicの聴き心地の良い音とはもう全然違って、とにかくノリが良くて爆音で、ライブの方が歌もすごく上手くて声も大きく、高音から低音までよく声が出て、ギターもとても上手で、プロだから当たり前なのでしょうが、普段何気なく聴いている彼女の音楽を間近でライブで聴

けて感動してしまいました。身近な日常を大切にしたい、当たり前毎日を大事に送りたいと言うことをよく話しておられるんですが、MCでもそれを話っておられて、気持ちがよく伝わりました。この、DRAMASと言うアルバムもその曲の中に、何気ない日常も一瞬を切り取ればドラマだと言う一節があり、毎日毎日、平凡だけれど同じことの繰り返しだけれどそれを何事もなくやり続けるということがいかに大切で大変なことかと言うことをいつも思っている自分としても、共感できる面がありこのアーティストを好きになったきっかけでもあります。

20代半ばの、若人3人でこれほどのクオリティの高い演奏をやれると言うことにも、プロってすごいなあと思った次第です。竹内アンナがどんな楽曲をやるのかは、その曲を実際に聴いていたかかないと内容をお伝えする事はできないので、拝聴していただくと良いと思われまます。

小さなライブハウスなので満員でしたが多分300から400人位のオーディエンスで埋まっていたように思います。途中1番前にお父さんに連れられたお子様が来られてその子に、アンナさんが何でも歌うからリクエストしてとか一生懸命話かけられて、優しいその人となりを感じました。

アンコール含めて約1時間40分のライブでしたが、私のライブの良いところはちょっと短めで早く帰れるからこの後食事も行けるし、もうちょっと聴きたいなあと思えるからそれがいいとこなんですよと笑わせてました。

実はライブには夫婦で行ったんですが韓国アイドル好きの家内は行く前は、あまり乗り気でなかったようですがライブが終わってからは、楽しかったと言ってくれました。今日これを書いているのが11月17日なんですけど11月23日にも名古屋で竹内アンナのライブがありまして、それにも参加する予定になっております。

また今後は、来年の2月、3月にスガシカオの
ライブの参加が決まっております。
それでは竹内アンナを知らない方にはあまりよ

くわからない内容ではございましたが、私の担当
は終わりとさせていただきます。



サントロペ及びその周辺の町村

宮脇 裕二（昭和55年入局）

昨年の夏も、恒例の南フランスを訪れました。手術前の痛い、膝を引きずりながら、南フランスのいろいろなところを回って参りました。今回はモナコ、カンヌと並ぶセレブな街サントロペ及びその周辺の村々についてお話をしたいと思いません。

サントロペは15世紀にできた町で、初めはひなびた漁村だったのですが、それからブリジットバルド主演の1956年作（素直な悪女）で、一躍有名になり、フランスの上流生活のシンボルとして世界中に知られるようになりました。フランス人が一生に一度は訪れたい憧れの場所であるそうです（写真1）。陸路からサントロペに入るには道が限られているので夏場は大渋滞となりますので、

海から船で入ることをお勧めします。連絡船はニースやカンヌから出ています（写真2）。まずこの地を訪れてみて、最初に思うのは待ち行く人々の服装の素晴らしさでしょう。モナコやカンヌと少し違う空気感を感じます。モナコは飾りまくった女性が多いと言う印象です。しかし、サントロペではさりげない着こなしがなんともオシャレで、セレブな女性達も多い（写真3）。とても美しい女性たちが多く見受けられます。ここで注意しなくてはいけないのは安易に写真を撮ると、そういうセレブの女性の後には必ずボディガードがついていますので、下手すると写真の削除を求められます。くれぐれもご注意を。

港から街へ入ると屋敷全部がシャネルショップ



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8

と言う邸宅に出くわします(写真4)。もう少し行くと、屋敷全体がディオールというカフェとショップがあります。このカフェはいつも行列ができていて、今まで1回しか入ったことがありません。味はあまり期待しないほうがいいですが、おしゃれである事は間違いないです(写真5)。

どうせ食事に行くなら、港にある赤いひさがひととき目立つ、老舗カフェ・セネキエ(写真6)、値段は高いですが料理は美味しいですね。夏場はかなり気温が高いため、街歩き、冷房の効いたショップで休憩、そしてまた街歩き、ショップの繰り返しでいかないと熱中症になってしまいますのでご注意ください。ショップの中で面白いところを見つけました(写真7)。自分の虹彩を写真に撮ってそれをアートとして部屋に飾るという店で、日本でもこれから流行ってくるのかな?とい

う感じでした。

港にはセレブの象徴大型クルーザーが所狭しと停泊しています。夜になるとこの中でパーティが繰り広げられるようです。街中に駐車していた車(写真8)、本当のセレブはこのような車に乗るみたいです。



写真10



写真9

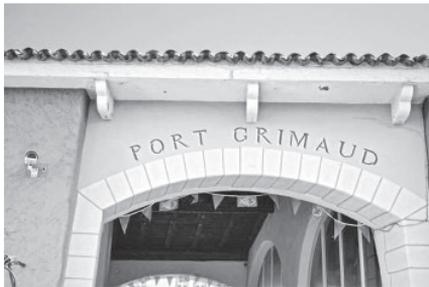


写真11



写真12

Gassin

サントロベから少し南西に行ったところにあるガッサンは「フランスで最も美しい村」に登録されている村で（写真9）、その展望台からはサントロベ湾を一望に見渡す事ができます（写真10）。村の中は中世の佇まいを残し、ブーゲンビリアが各所で咲き誇っています。眺めの良いレストランで周りのブドウ畑から作られる美味しいワインでも飲みながら、ゆっくりと昼食をとるのはいかがですか？

Port Grimaud

ポート・グリモーは1960年代に沼地の上に築かれた小さくて綺麗な村です（写真11）。この村が都市計画で人工的に作られたにも関わらず、まるで昔からそこにあったかのように自然に溶け込んでいるのは、綿密な都市計画の元築かれた事

を意味します。運河の前に建つカラフルな建物、その家の前にボート、クルーザーを留めて、自分のボートで移動します（写真12）。日本で言えば、天橋立近くの伊根の舟屋がイメージ的に近いかもしれません。

フランス人にとって引退後は南仏、コートダジュールで暮らすのが一つの憧れであるわけですが、このようなボートが係留できる家に住むのは、最も贅沢な引退生活と言えるでしょう。

その他、サントロベ周辺には美しい村が多数あります。グリモー、ラマテュエルなど。周辺の葡萄畑から作られる地元のワインを試飲できる店もあり、そこでボトルを買ってホテルで飲むのもいいかもしれません。

また機会があれば紹介したいと思います。



編集後記

皆様あけましておめでとうございます。本年は我が国は少数与党、米国はトランプ政権の返り咲きと予断を許さない年になりそうです。

今回も多くのご投稿をいただきありがとうございました。昨年惜しくも亡くなられた巨星、長田先生の追悼文を石崎先生、黒田先生にお願いいたしました。西上先生には日常診療に役立つ漢方治療を解説いただき、明日からの即戦力になろうかと思えます。

会報の編集をしていていつも苦勞するのは、原

稿集めと出版期限の厳守です。特に新年号は年内に皆様の元届けに届けないといけませんので、それがかなりのプレッシャーとなります。印刷屋の方も働き方改革？人材不足？のためか、例年より少し完成まで日数がかかりそうなので、御投稿いただいた先生方にはお忙しい中を締め切り厳守をお願いしたところ、ご快諾をいただき誠に感謝しております。

広報 宮脇裕二